



市民の誓い 私たちは 水を生かし 緑を広げ 安全に努め 心を育て 助け合います

<人口>

男	79,173	(-7)
女	83,466	(-56)
計	162,702	(-63)

<世帯数>

	64,095	(+107)
5月1日現在()は前月比		



郷土愛 育む教育を

～ふるさと大垣科スタート～

市内の全小中学校32校で5月16日、土曜授業が始まり、郷土について学ぶ「ふるさと大垣科」の授業が行われました。

同教科は、市の自然・歴史・文化・産業・俳句文学などを学ぶことで、郷土に愛着を持ち、その素晴らしさを語ることができるような子どもを育てることを目的に、市が独自で実施するもの。土曜授業は、年間30時間で、そのうち10～15時間が同教科に充てられ、学年ごとに分野を分けた3種類4冊のテキスト＝写真下＝



をもとに、授業が進められます。

この日、興文中学校では、1限目に全校生徒を対象にしたオリエンテーションを実施。市の特色や学習の狙いなどが紹介され、それを聞いた生徒らは、「大垣について、これからいろいろ調べてみたい」「学習を通して、大垣を知るだけでなく、よりよいまちにしていきたい」と学習内容に理解を深めるとともに、今後の授業に期待を高めていました。

2限目は、各教室に分かれ、いよいよ本格的にふるさと大垣科が開始。2年C組では、初めに市の産業構成や各業種の内訳などについて生徒が活発に意見を交わしました＝写真上＝。その後、各自が興味を持った市内の産業や会社を選び、1年間の学習計画を作成。今後は、計画に沿って企業訪問などの調査活動を行い、それらをまとめて年度末の発表会で披露します。

水防への意識 新たに

揖斐川連合総合水防演習・広域連携防災訓練

「揖斐川連合総合水防演習・広域連携防災訓練」が5月24日、今福町の揖斐川右岸河川敷で行われました。

これは、水防作業技術の向上を目的に毎年開かれている「水防工法大会」に代わって実施されたものです。国・県・揖斐川流域の市町、大学、NPO法人などの関係機関が一堂に会し、大型台風が上陸したという想定で大規模な演習が行われました。

市内からは、各地区の水防団25分団が参加し、「積み土のう工」「月の輪工」などの各工法を披露。団員らは汗を流しながら、日頃の訓練の成果を存分に出し切っていました。

また、演習の間には、少年消防クラブによる水防工法体験のほか、地元の川並連合自治会などによる水防体験、一般参加のゲリラ豪雨・地震・浸水体験なども実施。これらの体験を通じ、参加者は皆、間もなくやってくる出水期への「備え」を再確認し、水防への意識を新たにしていました。



手際よく土のうを積み固める団員(月の輪工)

6月1日号 主な内容

- ▶各種医療費受給者証の更新、国保料納付方法の選択、市・県民税納税通知書の発送など …2～3P
- ▶芭蕉蛤塚忌全国俳句大会作品募集、訓練講座 …4～5P
- ▶児童手当現況届と給付金申請書の提出、子育て情報など …6～7P
- ▶催しの案内、市民伝言板など …8～9P
- ▶健康ガイド …10～11P
- ▶奥の細道むすびの地記念館企画展、おおがき芭蕉楽市、歯の健康フェスティバル、すのまたあじさいまつり …12P

大垣の魅力発信に力を

～水の都大垣ふあんくらぶ設立～

市は、5月9日、市民の皆さんや大垣を愛する市外在住の人を対象に「水の都大垣ふあんくらぶ(愛称:おがっきくらぶ)」を設立しました。

会員の皆さんには、市外在住者に対して、催しやグルメ情報、ふるさと納税の呼びかけ、移住・定住のきっかけとなるような地域に密着した情報を口コミやSNSなどで発信していただきます。



また、会員の皆さんに会員証を発行し、イベント情報などを随時Eメールでお知らせするほか、移住・定住や観光案内などに関するパンフレットなどをお送りします。

さらに、市外に住む家族や友人、大垣ゆかりの人へ、ふるさと納税をPRしていただき、それらの人が市にふるさと納税をしていただいた場合には、呼びかけた会員と寄附者の両方に対して、水の都大垣ポイントを贈呈。ポイントに応じて、市の特産品などと交換することができます。

ぜひ、入会して大垣市の魅力を発信してみませんか。

詳しくは、専用サイトをご覧ください。どうか、都市プロモーション室(☎47-7681)へ。



QRコード